

地球環境の保全

Global Environmental Conservation



水セキュリティ

水セキュリティへの取り組み

当社グループでは、電池材料である電解液の希釈や充電工程における電池の冷却などの用途において、良質な淡水を多量に使用しています。水資源が事業活動を継続するために重要な天然資源であるため、品質を確保した淡水の確保や水使用量の削減などに取り組むことが重要であると考えています。そのため、当社グループでは、世界資源研究所（WRI）が公表している水リスク評価ツールや気候関連シナリオ、ならびに当社の環境影響評価結果を活用して、生産拠点における水リスク（洪水、渇水、水ストレスなど）を評価しています。特に、水ストレスが高いと評価した生産拠点（中国、トルコ、タイに所在する3拠点）の取水量は737,327m³であり、全生産拠点の約17%を占めています。当社グループは、水ストレスへの対応を含め、限りある水資源を有効に活用するために、世界各国の生産活動における水使用量の削減目標（2025年度までに2018年度比15%削減）を中期経営計画に組み込むことで、事業戦略と一体となった取り組みを推進しています。なお、国や地方自治体が行う取水制限などに対しても、適切に対応しています。

また、鉛蓄電池の生産工程では、有害物質（鉛など）を含む水が排出されます。当社グループは、このような排水が事業所の周辺環境に悪影響を与えないように、適切に排水を処理する重要性も認識しています。そのために、法規制や地域協定に基づく排水基準に確実に適合するように、規制基準より厳しい自主管理基準を設定した排水管理を行っています。

当社グループは、事業活動に必要な水の適正な確保や、排水に伴う事業所周辺の環境汚染といった水リスクへの適切な対応などを通じて、水セキュリティへの取り組みを推進するとともに、水資源の持続可能な利用の実現に貢献していきます。なお、水災リスク（洪水などによる自社工場の操業停止やサプライチェーンの分断など）については、TCFD提言に基づく気候変動関連リスクとして対応しています。

■ 水セキュリティへの取り組みの例

区分	項目	主な取り組み
水の利用	水使用量の削減	製造プロセスの改善などによるムダな水利用の削減、節水設備の導入、生産工程で使用した水の循環利用、従業員への節水啓発
排水の処理	排水管理	規制基準より厳しい自主管理基準による運用管理の徹底、排水処理施設の定期的な維持管理
	地下浸透防止	排水処理施設に対する防液堤の設置や床面の不浸透化
	緊急事態への対応	漏水を想定した緊急時対応手順の確立および訓練

■ 生産活動に伴う水使用量の削減

当社グループの生産工場では、水の循環利用や節水などに取り組むことによって、水の有効利用を促進しています。

鉛蓄電池工場では、充電工程で多量に使用する冷却水の循環利用や、雨水や工業用水ろ過装置の逆洗水などを適切に処理した水を再利用するなど、取水量を削減する活動を推進しています。また、特殊電池工場では、除湿機用室外機の水冷装置における散水用ノズルを噴霧式に切り替えることによって、必要な冷却性能を維持した上で、空調設備で使用する冷却水使用量の削減に取り組んでいます。

[当社グループにおける取水量推移データについて詳しくはこちらをご覧ください](#)

[当社グループにおける排水量推移データについて詳しくはこちらをご覧ください](#)

[水質・水量の認可・基準・規則に関する違反状況について詳しくはこちらをご覧ください](#)